

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 3 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

生育は、11 月下旬播きが 6～7 葉期で平年より 5～7 日程度遅く、12 月播きは 4～5 葉期で平年より 7 日程度遅れています。茎数は平年よりやや少ないです。出穂期は、今後の気温により左右されますが、11 月下旬播きで平年より 5 日遅い 4 月上～中旬と予想しています。排水口の手入れや枕地作溝、溝さらえ等の排水対策を徹底しましょう。「ラー麦 (ちくし W2 号)」「ミナミノカオリ」は、穂揃い期追肥の準備を行いましょう。

◇アスパラガス◇

保温開始は 1 月 15 日以降と平年並でした。出荷開始は低温のため平年より 5～10 日遅く 2 月上旬以降となり、数量増加も緩やかになりました。2 月下旬以降の気温上昇で、現在は春芽の出荷最盛期となっています。収穫物の太さは平年並です。急激な気温上昇により、若茎の穂先の開きややケ、アザミウマ類が一部で発生しています。九州の他産地も同様な生育状況で、出荷開始が遅れ、2 月までは高単価で推移しました。ハウスの温度管理は、生育を進めるため夜温を高く保つが、日中の温度は 30℃を超えないようにしましょう。前作終盤の病害等で養分蓄積が不十分とみられる株もあるため、立茎時期は、出荷量の減少や生産物の太さ等で総合的に判断し、遅れないようにしましょう。病虫害対策を徹底しましょう。

◇冬春ナス◇

着果負担が少なくなり、草勢は回復傾向です。花数も増えてきていることから、3 月下旬から 4 月上旬にかけて出荷量が増える見込みです。曇天が続いた後の晴天により、一部で日焼け果が発生しています。すすかび病が一部で発生、アザミウマ類、コナジラミ類が増え始めています。温度上昇に伴い、芽のふきや側枝の回転が急激によくなるので、かん水や追肥の回数を増やし、摘葉や芽の整理を行いましょう。換気、湿度管理、発病葉の持ち出し等により病害対策を行いましょう。

◇イチジク◇

12 月中旬加温の「とよみつひめ」は、展葉 13 枚前後で果実肥大期です。1～2 月の日照時間がやや少なく、低温傾向で推移したため、生育は昨年並み～やや遅れています。無加温ハウスでは発芽期～展葉期、露地栽培では未発芽です。加温ハウスでは夜間は 17℃前後を確保、日中は 30℃以上にならないよう、こまめなハウス管理を徹底しましょう。露地栽培ではアルミ蒸着フィルム等を用い、晩霜害対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

1～2月の出荷量は、年内出荷作型が遅れたため、前年に比べてやや増加しました。春出し栽培（3～4月出し）の生育は定植後の低日照とその後の低温傾向で遅れています。平年に比べて4月の出荷割合が増加する見込みです。品質向上、出荷期の省力化のためほ場での芽摘みを徹底しましょう。花の小輪化を防ぐため開花期は夜温を12℃以上で管理しましょう。斑点病、灰色かび病は、換気や湿度管理等の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

2月の肉牛枝肉単価は、前月より続落で推移して前年比97～98%です。和牛去勢に比べ交雑種相当の省令価格で下げ幅が大きい傾向も継続しています。子牛の防寒対策はまだ継続し、舎内消毒等、農場の衛生管理を徹底しましょう。